新郡市医師会長の紹介

渡島医師会

会長　渋谷（しぶや）　好孝（よしたか） 先生

令和７年６月、光銭健三前会長の後任として、渋谷好孝先生が第11代会長に就任されましたので、ご紹介いたします。

渋谷先生は昭和36年に美唄市でお生まれになり、岩見沢東高校、北里大学医学部を経て、昭和61年北海道大学小児科学教室に入局し研鑽を積まれ、平成15年11月に上磯町（現北斗市）に、かみいそこどもクリニックを開院されました。渡島医師会では、平成17年より理事、平成23年より常任理事、平成29年より副会長を歴任されています。

先生はご開業時の22年前に道南の小児科医のメーリングリストを立ち上げ、これにより小児科医同士の連携がさらに高まることになりました。また、道南の感染症の動向を独自に集計し公表することによって、小児医療に大きく貢献されています。さらに、この地域では初めて民間での病児保育を始められました（現在は撤退）。また、児童虐待防止法制定とともに、北海道子どもの虐待防止協会道南支部を立ち上げ啓発活動に従事されています（現在支部長は引退）。北海道保険医会函館地区の支部長もされ、医科のみならず歯科の先生との連携交流発展にも寄与されています。保険医会や医師会の行事の際には、広い人脈から芸能関係者を招へいする、などプロモーターのような役割もこなし、さらには、紹介者の妻となる女性も紹介していただきました。このように、様々な業績功績がおありになります。今後も一市九町を抱える広い渡島地方の住民の健康を守るべく、手腕を発揮されることでありましょう。

北海道医報通信員
渡島医師会常任理事　田中　慈雄

小樽市医師会

会長　大本（おおもと）　晃裕（あきひろ） 先生

令和７年６月、大本晃裕先生が第23代小樽市医師会会長に就任されました。大本晃裕会長は昭和59年３月順天堂大学医学部をご卒業され、同年４月北海道大学医学部第二内科に入局されました。入局後は膠原病グループで研鑽を積まれ、現在は日本リウマチ学会専門医、日本アレルギー学会専門医、日本内科学会総合内科専門医などをお持ちです。関連病院である市立札幌病院第二内科に勤務の際は、造血幹細胞移植の立ち上げに尽力されたとお聞きしています。平成９年７月ご実家である大本内科クリニックの副院長に就任され、平成15年に院長となられました。日常の診療では、一般内科のほかリウマチ性疾患を中心とした診療に当たられ、後志全域のリウマチ性疾患患者の診療に当たられています。

平成29年６月、阿久津光之元会長在任中に小樽市医師会理事に就任し、医療情報・医療政策部を担当されました。その情報収集能力は理事になられた当初から突出したものがありましたが、大本会長の力が本当に発揮されることになったのは、2019年中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症パンデミックでした。世界中のあらゆる情報をわかりやすくまとめ会員に発信されただけでなく、小樽市夜間急病センターの敷地内に設置された新型コロナウイルス感染症検査センターの責任者として、その重責を果たされました。さらにワクチンの集団接種体制の構築、運営に尽力され、大きなトラブルもなくその難局を乗り切りました。小樽市のコロナウイルス感染症対策は、大本会長のご活躍なくしては乗り切ることは難しかったと思われます。その間、鈴木敏夫前会長の下、令和３年６月からは副会長に就任しています。

医療の世界には、医療DXを中心とする急速な変化が訪れています。そして、小樽市は他の都市には類を見ない超少子高齢化と急速な人口減少が生じています。この難局を乗り切るため、大本会長のお力がさらに発揮されることと確信しています。

北海道医報通信員
小樽市医師会理事　髙橋　　達

余市医師会

会長　林（はやし）　和秀（よりひで）先生

この度、６期11年務められました小嶋研一前会長の後任として、医療法人社団修徳会林病院理事長・院長の林和秀先生が就任されましたので、ご紹介いたします。先生は旭川生まれで、お父様の開業に伴い、小学校２年時に余市町へ転居されました。中学校は横浜の全寮制学校へ進学され、小、中共に野球少年でエースで４番でした。小樽潮陵高校へ進学し、３年間余市から小樽までJRで通学されました。SLで通学した思い出があるそうです。高校時代は軟式野球部やゴルフ部に所属され、その後はお父様の母校でもある札幌医科大学に進学されました。大学ではアルペンスキー部に所属、４年、５年時には東医体の回転競技で優勝。大学卒業後は同大学の神経精神医学講座に入局され、帯広や釧路で勤務したのち札幌医科大学神経精神科医局長を務め、平成15年４月にご実家の林病院勤務、平成23年１月に院長に就任。令和６年１月１日に理事長・院長となりました。札幌医科大学勤務時には種々の認知症の神経病理の研究に従事されており、現在も物忘れ外来など認知症の知識を生かした診療をされています。大学での副医局長、医局長時代に30名以上の新入医局員を獲得した凄腕です！

趣味としてスキー、ゴルフに打ち込んでいましたが最近は仕事が忙しく、週に一度ウォーキングを楽しみ、病院スタッフと始めたバンドではギターとボーカル担当です。息子さん二人に恵まれ、長男は医師、次男は大学博士課程で研究生活とのこと。現在は奥様と二人で余市町に居住し、大好きな地元余市・仁木のワインとフランス、イタリア産とを飲み比べ、週末にはご夫婦で余市町の仲間と地元グルメを楽しみ、２次会はニッカウヰスキーをハイボールで乾杯！　大学の同級生である私が、縁あって余市で開業させていただき、先生がおられたことを大変心強く感じます。私も一理事として、会長の力になれるよう、できる限りのお手伝いをさせていただきます。

北海道医報通信員
余市医師会理事　前田　義裕

北海道大学医師会

会長　南須原康行（なすはらやすゆき）先生

北海道大学医師会長に南須原康行先生が本年４月よりご就任されましたので、ご紹介いたします。

先生は昭和63年に北海道大学医学部をご卒業（第64期）後、同第一内科（現・呼吸器内科学教室）に入局されました。以来、気管支喘息やびまん性肺疾患を中心に診療・研究に従事され、平成８年には英国インペリアル大学 国立心肺研究所胸部疾患部門に留学。その後、第一内科の助教・講師を経て、平成20年より北海道大学病院医療安全管理部准教授・専任リスクマネジャーに就任され、医療安全の実質的な責任者として病院運営に大きく寄与されてきました。平成29年には同教授に昇任、平成31年からは副病院長を務められ、本年（令和７年）４月より北海道大学病院長に就任されております。

院内での医療安全の実務や体制の整備に尽力されるのみならず、日本医療安全調査機構にはその前身のモデル事業時代から中心的な役割を担い、また、北海道医師会を中心に組織された「北海道医療事故調査等支援団体連絡協議会」では副会長として、道内の多数の医療機関の事故調査支援を行っておられます。さらに、日本医療機能評価機構では分析専門委員として医療事故防止の啓発活動を全国規模で展開されています。

昨今の急激な物価高騰や人件費の増加により、北海道大学病院も厳しい経営状況に直面していますが、南須原先生は自ら先頭に立ち、果敢に改革を推し進めておられます。しかし、根底には「和と協調」を信条とする姿勢があり、多職種が働く北海道大学病院において、互いに信頼し尊重し合う関係づくりを日々体現されています。また、天性の明るさに加え、誰とでもすぐに打ち解ける温かな人柄、そして、迅速に行動へ移す実行力は、まさに今の時代が求める病院長像にふさわしいものと確信しております。

南須原新病院長のもと、全職員が一致団結し、この困難な局面を乗り越えてまいります。北海道医師会の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

北海道医報通信員
北海道大学医師会副会長　本間　明宏